

県議会議員

あらい、絹世の磯っ子レポート

夢と希望のある神奈川を



<https://araikinuyo.jp/>

一般会計「骨格」も、6年連続で最大規模 県の来年度当初予算案総額4兆6815億円

神奈川県の新年度（2023年度）予算案が2月13日の県議会定例会本会議に提案され、審議のうえ3月15日の本会議で採決される予定です。4月の知事選を控え、義務的経費や県民生活に直結する施策を中心とした骨格予算として編成された一般会計予算は、前年度当初予算より約831億円少ない2兆2616億6100万円、国民健康保険などの特別会計、企業会計（水道事業など）予算の3会計合わせた総額4兆6815億1200万円となっています。これは前年度当初予算総額より約629億円多く、6年連続で過去最大を更新したことになります。企業収益の改善で法人二税（県民税、事業税）が8.9%（約3356億円）、物価上昇の影響で地方消費税が10.8%（約4462億円）それぞれ増えたことなどで、借金に当たる県債の新規発行額は1278億円と前年度より441億円少なくなっています。

一般会計の当初予算案では「持続可能な神奈川の推進」を念頭に4つのキャッチフレーズが掲げられています。このうち「喫緊の課題」では「新型コロナとの共存を前提とした感染症対策の取り組み」として2099億円が計上（日常の医療体制に戻りつつあることなどを勘案し前年度当初より1083億円の減）されており、「脱炭素社会の実現に向けた取り組みの主な事業」として前年度当初より27億円多い62億円を計上。「次世代育成の取り組み」として「小児医療費助成を6歳から小学校卒業の12歳までに拡充する」ことでは全予算として60億円を見込み、「スクールカウンセラー等の配置拡充やケアリーバー等への支援」として計10億2023万円を計上しています。「当事者目線の障害福祉推進条例の実効性の担保など共生社会の実現を目指す」拡充分として1.5億円を計上しています。「県民生活に直結の事業」として水防災戦略で2022年度まで3年間で1374億円の予算だったものを2023年から3年間のものを2142億円に拡充しています。ほかに県立教育施設整備の推進、県有施設の老朽化対策、トイレプロジェクト、急傾斜地崩壊対策、交通安全施設整備などの対策が掲げられています。

ほかに私が着目した施策として、「市町村から要望の多い防犯カメラ設置への補助の充実化にこたえ1台当たり補助上限を4万円から10万円に引き上げる」、「特殊詐欺被害防止対策普及啓発の充実」、「困難を抱える子供支援のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを増やす」「若者ケアラー（おおむね18～24歳）などへの家事支援を新設するなどケアラーへの支援」があります。



コレが言いたい!

かねてより我が会派は地に足の着いた事業を着実に実施する事を求めてきました。令和5年度の当初予算では、摩耗した道路標示の重点整備等や水害や土砂災害から県民のいのちと財産を守るため、河川改修及び急傾斜地崩壊対策が加速化するなど県民生活に直結する事業が実施される事となりました。また、「次世代育成の取り組み」は、一過性のものではなく来年度も継続して取り組まなければなりません。その為には恒久的な財源を確保する必要があります。

今月のひと言

道府県議会議員選挙・横浜市議会議員選挙は3月31日（金）に告示されます。また、神奈川県知事選挙は3月23日（木）告示され、いずれも4月9日（日）が投票日となります。

磯子あれ? これ?

磯子区上町 (〒235-0001)

上町の沿革は、明治22(1889)年4月の町村制施行により根岸村が施行されたのが始まりで、明治34(1901)年4月には横浜市に編入、横浜市根岸町となりました。

昭和2(1927)年10月、区政施行に伴い磯子区西根岸町字上となり、昭和8(1933)年4月、西根岸町を廃止して西根岸上町が新設されました。昭和40(1965)年7月、磯子区上町へと町名が変更され現在に至ります。

同町は、磯子区の北端に位置して世帯数は641、人口1,263人(令和4年3月)で、堀割川と南北に走る崖との間にあります。

崖の上(敷地の一部)は、戦後在日米海軍の住宅地として利用されてきました。敷地は国有地、市有地、民有地からなり、平成6年日本への返還が日米間で合意され、平成27年に米軍関係者全住民が退去して、横須賀や池子住宅等へ移住しました。

以前は、同町内に二軒の銭湯(美人湯・大盛館)がありましたが、現在は、大盛館のみの営業となりました。また、大盛館の裏手には昭和55(1980)年廃止となった丸善市場(店舗数12)もありましたが、今は駐車場になっています。

参考:フリー百科事典(ウィキペディア)・磯子区統計白書・地域の方のはなし

活動報告

会長を務める「かながわ自民党女性議員局」に所属する県内議員及び候補予定者と小泉進次郎県連会長が統一地方選挙に向けて懇談会を開催しました。かながわ自民党に所属する女性議員数は20名と多くはありません。女性議員が増える事で、仕事と家庭・介護との両立や子育て、環境問題など女性の視点を活かし、誰もが生きやすい社会へさらに変える事が出来るのではないかと考えます。



あらい絹世 プロフィール

- 昭和43年3月8日 横浜市磯子区生まれ
- 横浜雙葉小・中・高等学校卒業
- 明治学院大学社会学部社会福祉学科卒業
- 日商岩井(株)/ (株)メタルワン
- 平成31年4月 県議会議員3期目当選

- 総務政策常任委員会委員
- 共生社会推進特別委員会委員
- 予算委員会委員
- 自民党県議団政務調査会会長
- かながわ自民党女性議員局長

